



かげさまで600号を迎えました 皆さんと共に歩んだ 広報ひの

1号(昭和30年8月発行)

以前瀬川欣一さんが連載されていた「ふるさとの文化財」や現在連載中の「温故知新」に興味があります。

現在町内の33の神社の宮司を務めており、馬見岡綿向神社のお正月の大絵馬が広報の表紙などに使われたことがあります。また、父が「日野で最も家系の古い家」と広報で紹介されたことも懐かしく覚えています。

広報ひのが600号続いてきたことこそが、日野の歴史を綴っていることなのだと思います。



社 信之さん (村井1区)

このたび「広報ひの」が600号を迎えることとなりました。皆さんと共に歩み続けて55年。発行以来、住民の皆さんと町をつなぐパイプ役として、町の出来事や情報をお伝えしてきました。

100号ずつの節目の頃に生まれた方や町外で購読いただいている方にお話を伺いました。

皆さんにとって「広報ひの」を改めて考えていただくきっかけになればと思います。これからも分かりやすく親しみのある広報紙を目指していきます。「みんなで作る広報ひの」のために、ご協力をよろしくお願い致します。

年2月発行)



南比都佐小学校平成14年生まれの皆さんへの質問:「広報ひの」を知っていますか?

100号(昭和43年10月発行)

JA有線放送で働き、取材をしていた時、うまく情報を伝えるにはどうしたらよいかを考え、生の声をお伝えしていました。有線は音声、広報は紙面と伝えたい思いは同じですね。

現在町外で働いているので、広報は町を知る情報源になっています。また、以前演劇や青年団で取材してもらった広報紙を見ると、自分の足跡をたどることができ、大変懐かしいです。



真崎三幸さん (河原)

200号(昭和52年2月発行)



牧田宏子さん (小谷)
写真:ジンバブエ赴任時の牧田さん

5年前、青年海外協力隊員として、アフリカのジンバブエへ赴任し、パソコン技術を現地の方に教えていました。出発前、役場に表敬訪問したことが広報で紹介され、近所の方々から声をかけていただきました。広報は、身近な方々と話すきっかけ作りにもなるものだと思います。

現在、アフリカでの経験から、学校などで講演活動を行うと共に、よりIT技術を習得するために、働きながら大学院で学んでいます。



「広報ひの」は 町外の方にも

「広報ひの」は、日野町にお住まいでない方にも、読んでいただいています。日野町を離れても、読みたいと思ってくださる読者の皆さん。その中のお一人にお話を伺いました。

- 67号：役場に対する質問欄として「もしもし(S41) 280番」が始まる。89号からは「ダイヤル②1211」に名称変更。
- 164号：町長への思いを一人ずつが語る「町長(S49) さんにひと言 わたしも登場」が始まる。
- 190号：町内で活躍している人を紹介する「こ(S51) の人 わたしも登場」が始まる。
- 250号：「みんなのニュース」が始まり、初めて(S56) 街角でのいろいろなニュースを掲載。
- 262号：50音順で各字の由来を紹介する「ふるさとの歩み」、町内で活躍中のサークルを紹介する「わたしの生きがい サークル活動」が始まる。また、今も続く「わが家のアイドル」もこの号から始まり、現在までに延べ983人のお子さんが登場。

【ちょっとひとこと】

広報紙は町の顔、貴重な情報発信源として町民の方に身近に感じていただき、より多くの方に見ていただけるよう読みやすい紙面づくりを心掛けてきました。「わが家のアイドル」は、その一環ですが、今日まで続いていてとてもうれしいです。 ㊦

- 327号：瀬川欣一氏による町内に残る文化財の(S62) 紹介「ふるさとの文化財」が始まる。
- 346号：まちづくりへの思いを語る「わたしの(H1) 声」、今も掲載している「まちの話題」が始まる。
- 348号：編集者の声を届ける「編集後記」が始(H1) まり、382号から「ちょっとひとこと」に変更。
- 394号：今も続く、健康推進員さんがレシピを(H5) 紹介する「ヘルシークッキング」が始まり、これまでに207レシピが登場。

【ちょっとひとこと】

担当していた頃の広報を読み返し、「まちづくりをしていくためにはいかにそこに住む人に自分のふるさとを好きになってもらうかが大切」という言葉を見つけました。これからも皆さんに日野のよさを知っていただき、共にまちづくりをしていくための情報源となればいいなと思います。 ㊦

- 466号：花を植える時期・玄関先などでの花作(H11) りを紹介する「広げよう花のまち」が始まる。
- 490号：リレー方式で人物を紹介する「すまい(H13) る21」が始まる。

【ちょっとひとこと】

記念すべき500号では、100号ごとに登場していただいた方々に再びインタビューし、思い出を振り返っていただき、町のあゆみを紹介しました。町民皆様のご協力により、毎月発行した「広報ひの」。これからも人とまちをつなぐ大切な広報紙であってほしいと思います。 ㊦

- 526号：「キラリ人」が始まり、現在も掲載中。(H16)
- 549号：「温故知新」が始まり、現在も掲載中。(H18)

300号(昭和60年6月発行)

高校生の頃から、日野町子ども会指導者連絡協議会主催のアドベンチャーキャンプにリーダーとして参加したり、現在青年団の活動に参加させてもらったりしています。町の行事に参加すると、町により興味を持つようになりまし
た。「広報ひの」では、町の出来事など、身近な情報を見ます。仕事をするだけでなく、町のいろいろな活動に参加し、仲間と一緒に今を楽しみたいと思います。



とくだ なおき 徳田直樹さん(十禅師)



400号(平成5年10月発行)

新聞であれば、身近で気になるコラムなどを読みます。「広報ひの」も、高校生にとつて身近な話題があれば読者が増えると思います。

町村合併55周年記念式典の司会をさせていただいた時の「広報ひの」を見て、とても緊張していたことを思い出しました。この夏にはアナウンスの全国大会に出場する予定です。生徒会では、7月に開催される第60回体育祭で新種目を取り入れるなど、記念大会に向けて活動中です！



ひの高等学校・生徒会長 やまもと よしき 山本祥輝さん

500号(平成14)

答え…「赤ちゃんの写真(わが家のアイドル)を見ます。知っている子はいるかな?と探します」いつも家に届いている「初めて見た!」

南比都佐小学校では、日野菜漬を作ったり、学校林でマウンテンゴルフをしたりすることが出来ます。サッカーやプールも楽しいです。学校大好き!



南比都佐小学校 平成14年生まれの皆さん



高校卒業まで日野に住んでいました。その後、30年前から、両親と大阪に住んでいます。母がずっと郵送料を払い、「広報ひの」を読んでいました。現在94歳になっています。

今年の「広報ひの」6月号に食博の記事が載った中の一文に、「日野町出身の93歳の方」とあったとき「これはおばあちゃんのことだ!」と大変驚きました。母は大窪出身でホイノポリや祭囃子が好きだったので、認知症が進んでいたのですが、せっかくの機会ということで連れていきました。食博では日野がこれほど大きく宣伝されていたことに感心しました。

「広報ひの」で日野のニュースを読み、いつも懐かしく思っています。

大阪市 山本晴子さん